



**平成24年(2012年)3月期
第2四半期 決算説明会**

平成23年11月4日
エバラ食品工業株式会社

1. 第2四半期 決算報告

2. 通期業績見通し

3. 今後の事業戦略

4. 巻末資料

第2四半期決算のポイント

1. 前年同期比で増収を達成した。
『黄金の味 具だくさん』の貢献度が大きい。
『すき焼のたれ』、『浅漬けの素』も好調を継続している。
2. 好調な売上げに加え、販管費の抑制が進んだことで増益を確保した。
3. 原発事故により7月以降の牛肉の消費動向に変動があったものの、当社業績に大きな影響を及ぼすことはなかった。

損益の状況

前年同期比で増収増益を達成

(単位:百万円)	H22.9	H23.9	前年同期比	
			増減	増減率 %
売上高	25,139	25,853	713	2.8%
売上総利益	12,363	12,767	404	3.3%
売上総利益率 %	49.2%	49.4%	+0.2pt	
営業利益	1,445	1,740	294	20.4%
営業利益率 %	5.8%	6.7%	+0.9pt	
経常利益	1,546	1,783	236	15.3%
経常利益率 %	6.2%	6.9%	+0.7pt	
四半期純利益	818	976	157	19.3%
四半期純利益率 %	3.3%	3.8%	+0.5pt	

貸借対照表の状況

季節的な売上変動によりH23.3対比で売掛金が増加

※ 例年の傾向と同様

(単位:百万円)	H23.3		H23.9		増減
		構成比 %		構成比 %	
総資産	30,687	100.0%	32,394	100.0%	1,706
流動資産	17,753	57.9%	19,574	60.4%	1,820
固定資産	12,933	42.1%	12,819	39.6%	△114
負債	11,970	39.0%	12,951	40.0%	981
純資産	18,716	61.0%	19,442	60.0%	725
自己資本比率		61.0%		60.0%	△1.0pt
負債比率		64.0%		66.6%	+2.6pt
流動比率		199.1%		199.1%	0.0pt
固定比率		69.1%		65.9%	△3.2pt

キャッシュ・フローの状況

増収によりキャッシュフローは良好に推移

(単位:百万円)	H22.9	H23.9	増減
(1) 営業活動によるCF	668	1,040	371
(2) 投資活動によるCF	△1,138	△502	636
財務活動によるCF	△280	△286	△6
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少額)	△751	251	1,003
(1)と(2)の合計	△469	538	1,007

営業活動によるCF

- 税金等調整前四半期純利益
1,775百万円
- 減価償却費 581百万円
- 売上債権増加額 △1,313百万円
- 仕入債務増加額 540百万円

投資活動によるCF

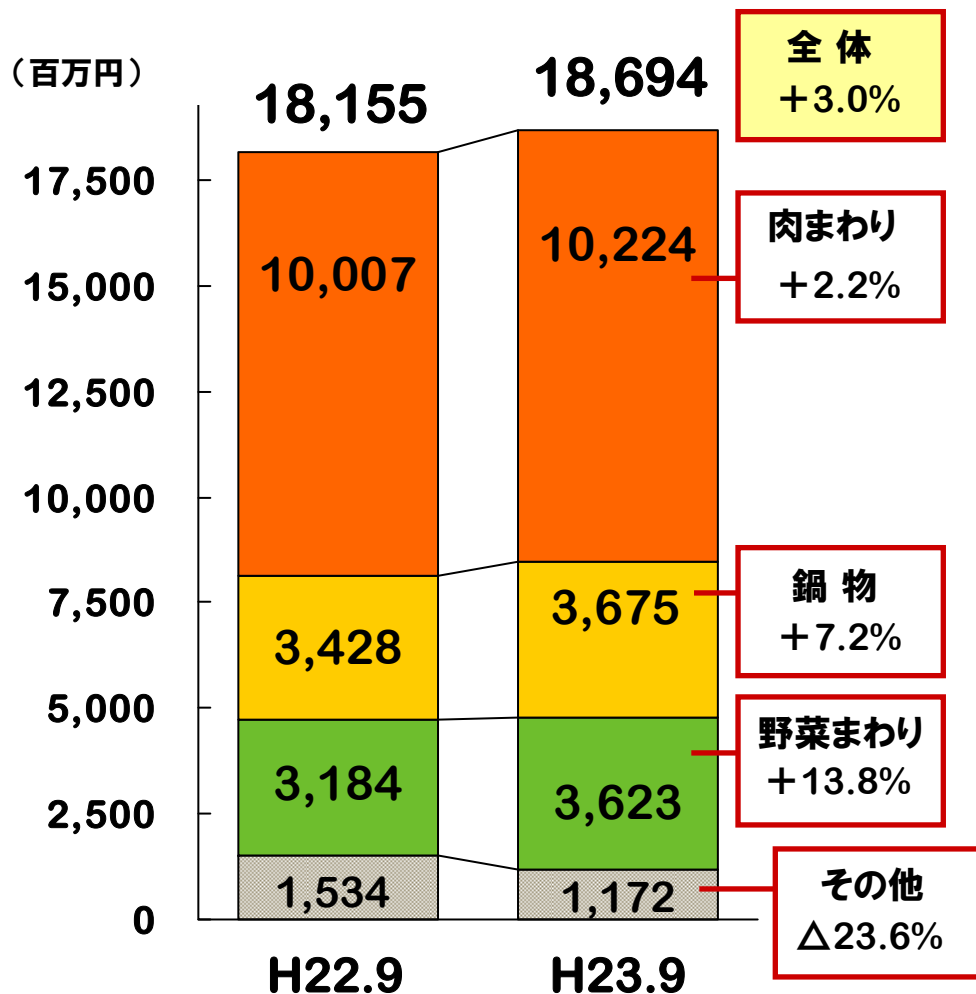
- 固定資産の取得による支出
△404百万円

財務活動によるCF

- 配当金の支払額 △284百万円

食品事業 家庭用商品の状況

肉まわり調味料、鍋物調味料、野菜まわり調味料が引続き好調。



肉まわり調味料群

- ・『黄金の味 具だくさん』が大きく貢献したが、既存の『焼肉のたれ』、『黄金の味』は前年同期を下回った。

鍋物調味料群

- ・前年度からの『すき焼のたれ』プロモーション効果が持続している。汎用性の訴求が奏功し、家庭での使用機会が増えたことで堅調に推移した。

野菜まわり調味料群

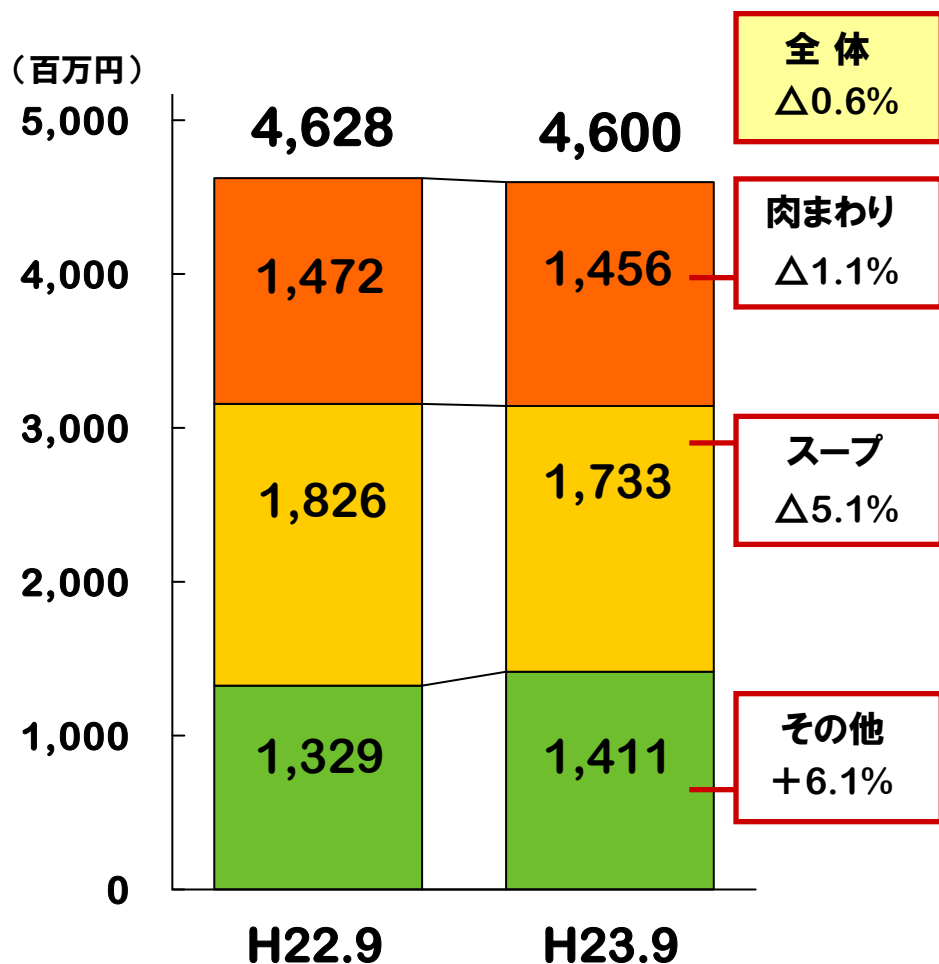
- ・『浅漬けの素』が、前年度に引続き大きく伸びる。若年世帯へのプロモーション効果が奏功した。

その他群

- ・チルド商品の取扱いを合併会社に移管した。

食品事業 業務用商品の状況

『浅漬けの素』が好調なその他群が伸びるが、全体では苦戦。



肉まわり調味料群

- 『黄金の味 具たくさん』のタイアップ企画が伸長するも、外食産業の不振により前年同期を下回る実績となった。

スープ群

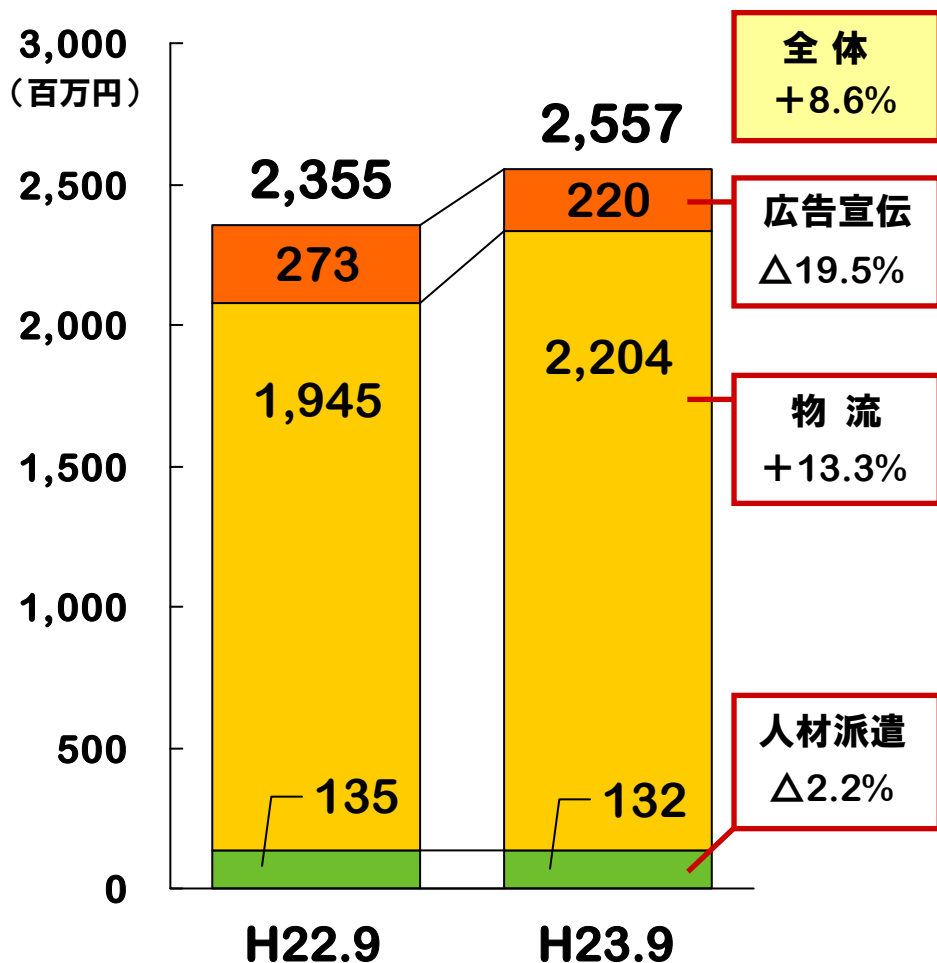
- 震災の影響による東日本でのラーメン店の業績悪化や産業給食の伸び悩み等の外部環境の悪化により苦戦を強いられた。

その他群

- 前年度に引き続き、『浅漬けの素』が好調に推移し、前年同期を上回った。

その他事業

物流事業が新規顧客との取引拡大により大きく伸びる。



広告宣伝事業

- ・震災の影響により取引が減少し、売上げが落ち込んだ。新規顧客の獲得に努めるもカバーできず。

物流事業

- ・新規顧客との取引高が増加し、前年同期で大きく売上高を伸ばした。

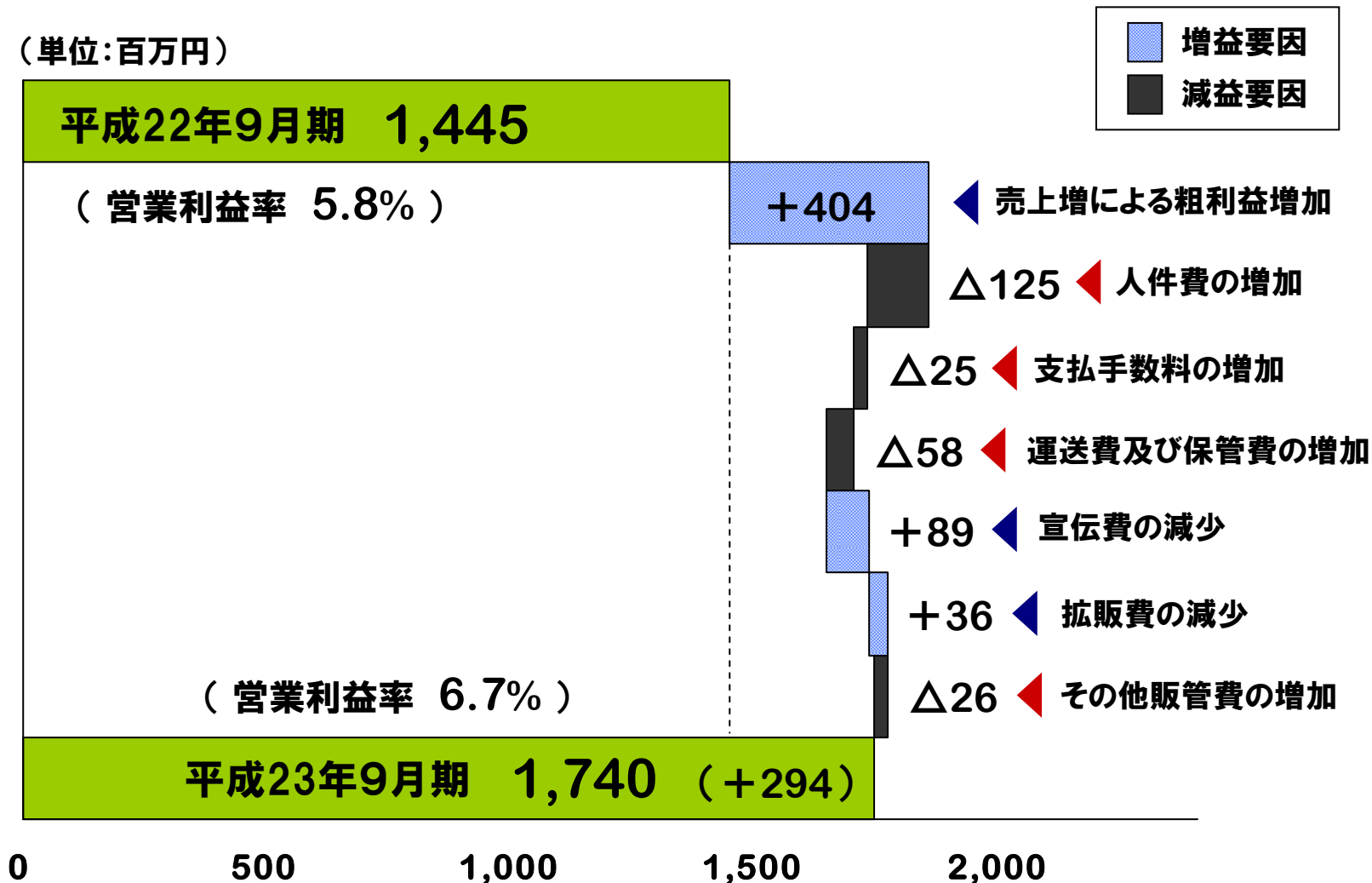
人材派遣事業

- ・震災後の取引減少により前年同期を下回る。

営業利益の分析

営業利益は前年同期対比で 294百万円 の増加

(単位:百万円)



経常利益及び四半期純利益

合併会社設立初年度として持分法による投資損失 22百万円 を計上
 災害損失引当金戻入益として 11百万円 を計上

(単位:百万円)	H22.9		H23.9	
		構成比 %		構成比 %
売上高	25,139	100.0%	25,853	100.0%
営業利益	1,445	5.8%	1,740	6.7%
営業外収益	102		68	
営業外費用	2		25	
経常利益	1,546	6.2%	1,783	6.9%
特別利益	—		12	
特別損失	53		20	
四半期純利益	818	3.3%	976	3.8%

営業外収益の主な内訳

- ・ 受取利息 13百万円
- ・ 受取配当金 16百万円
- ・ 受取賃貸料 18百万円

営業外費用の主な内訳

- ・ 持分法による投資損失
22百万円

特別利益の主な内訳

- ・ 災害損失引当金戻入益
11百万円

特別損失の主な内訳

- ・ 投資有価証券評価損 10百万円

主要指標の推移

	H21.9	H22.3	H22.9	H23.3	H23.9
ROA 総資産当期(四半期)純利益率	2.8%	2.8%	2.7%	3.6%	3.1%
ROE 自己資本当期(四半期)純利益率	4.8%	4.7%	4.5%	6.0%	5.1%
当期(四半期)純利益率	3.5%	1.8%	3.3%	2.2%	3.8%
総資産回転率(回)	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
財務レバレッジ(倍)	1.7	1.7	1.7	1.6	1.7
1株当たり 当期(四半期)純利益(円)	79.56	78.59	77.11	104.03	91.98
1株当たり純資産(円)	1,700.10	1,696.87	1,740.33	1,763.79	1,832.37
1株当たり配当金(円)	—	27	—	27	—
従業員数(人)	645	648	662	662	655

1. 第2四半期 決算報告

2. 通期業績見通し

3. 今後の事業戦略

4. 巻末資料

通期業績見通しのポイント

通期では当初の業績予想を変更しない。

セグメント別売上高

(単位:百万円)	H22.3 通期実績	H23.3 通期実績	H24.3 通期見通し	H23.3 対比	
				増 減	増減率 %
肉まわり調味料群	17,514	17,843	18,170	326	1.8%
鍋物調味料群	9,909	10,420	10,470	49	0.5%
野菜まわり調味料群	3,960	4,557	4,580	22	0.5%
その他	2,877	2,700	1,850	△850	△31.5%
家庭用商品 合計	34,262	35,521	35,070	△451	△1.3%
業務用商品	8,829	8,873	9,250	376	4.2%
食品事業 合計	43,091	44,395	44,320	△75	△0.2%
その他事業	4,556	4,917	5,040	122	2.5%
全社売上高 合計	47,647	49,313	49,360	46	0.1%

通期の業績見通し

売上高はほぼ横ばいだが、利益面は減少する

(単位:百万円)	H22.3 通期実績	H23.3 通期実績	H24.3 通期見通し	H23.3 対比	
				増 減	増減率 %
売上高	47,647	49,313	49,360	46	0.1%
売上総利益	22,970	23,736	23,540	△196	△0.8%
売上総利益率 %	48.2%	48.1%	47.7%	△0.4pt	
営業利益	1,654	2,080	1,790	△290	△14.0%
営業利益率 %	3.5%	4.2%	3.6%	△0.6pt	
経常利益	1,752	2,223	1,730	△493	△22.2%
経常利益率 %	3.7%	4.5%	3.5%	△1.0pt	
当期純利益	834	1,104	790	△314	△28.4%
当期純利益率 %	1.8%	2.2%	1.6%	△0.6pt	

1. 第2四半期 決算報告

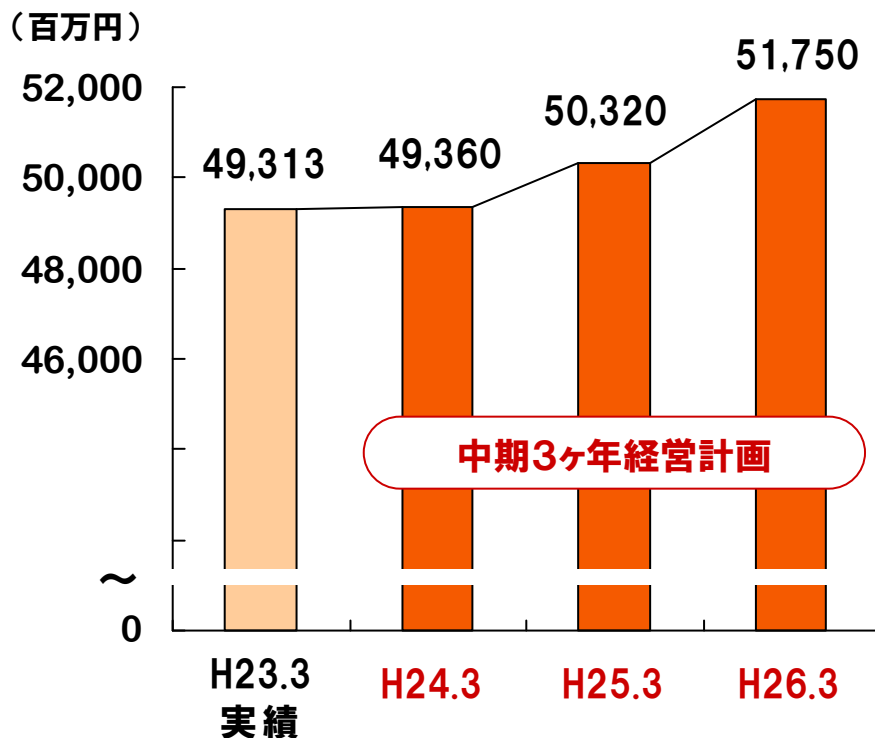
2. 通期業績見通し

3. 今後の事業戦略

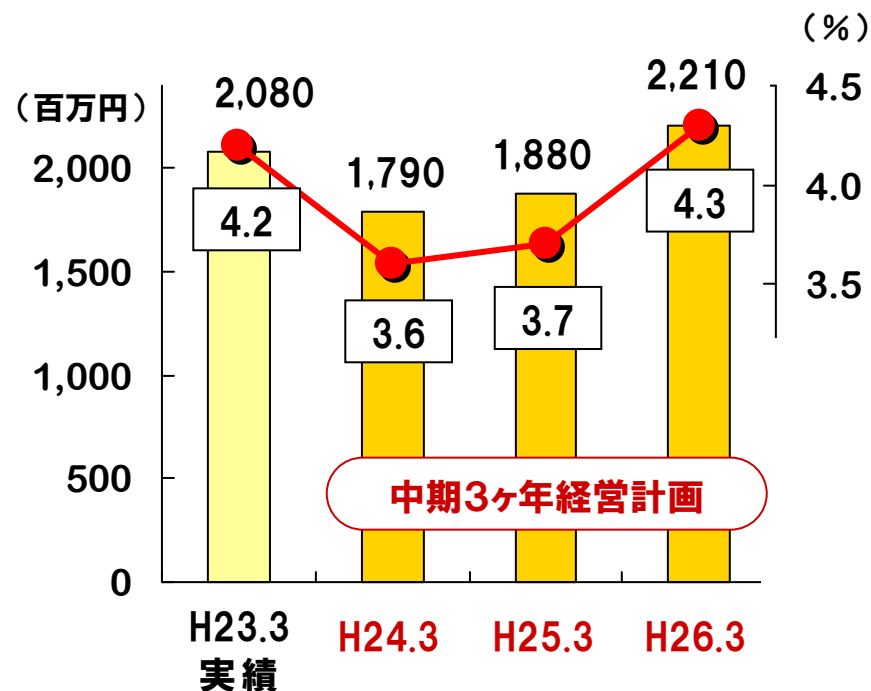
4. 巻末資料

中期3ヶ年経営計画

売上高



営業利益/率



基本戦略

1. 基盤事業の深耕による収益力の向上
2. 持続的成長に向けた事業育成の取り組み
3. ブランドマネジメントの推進
4. 企業体質の強化

第2四半期までの取組み

商品開発力の強化

- ・ 開発体制の強化による商品開発精度の向上。
- ・ 業績を支える新商品の開発。

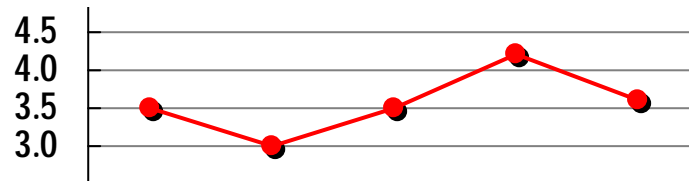
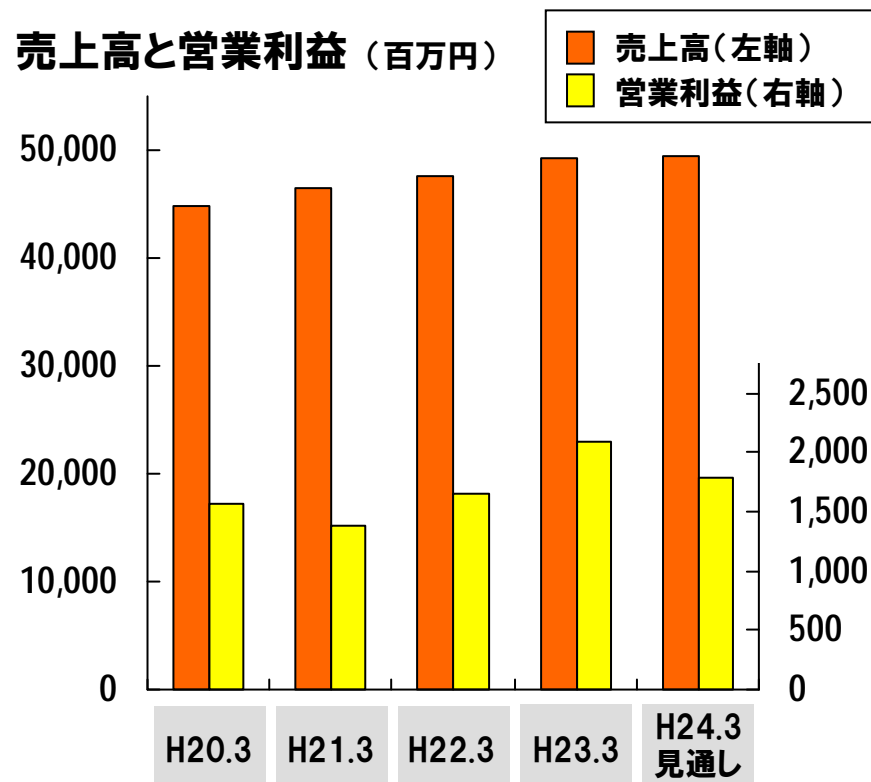
原材料価格の高騰への対応

- ・ 原材料の見直しや包材の軽量化によるコスト削減。調達が多様化。

価値創造型プロモーションと提案型営業への変化

- ・ 『すき焼のたれ』『浅漬けの素』の取組み。
- ・ 既存商品の新しい価値を提案するクロスMDの推進。

売上高と営業利益（百万円）



営業利益率 (%)

● 同じ店舗内で複数提案

父の日は
おうちで焼肉!



精肉売場



鮮魚売場



青果トマト売場



メニュー提案



POP



● ディスプレイコンクール



今後の事業展開

基盤事業

家庭用商品

- ・ 新市場創造型商品(MIP)の開発
- ・ 価値訴求の推進
価値創造型プロモーション
ブランド戦略
- ・ 商品育成と効率的な販売促進

業務用商品

- ・ 業務用事業の体質改善

育成事業

海外事業



- ・ 中国市場での安定した成長
- ・ 新たな事業可能性の追求

チルド事業



- ・ 中核事業への育成

1. 第2四半期 決算報告

2. 通期業績見通し

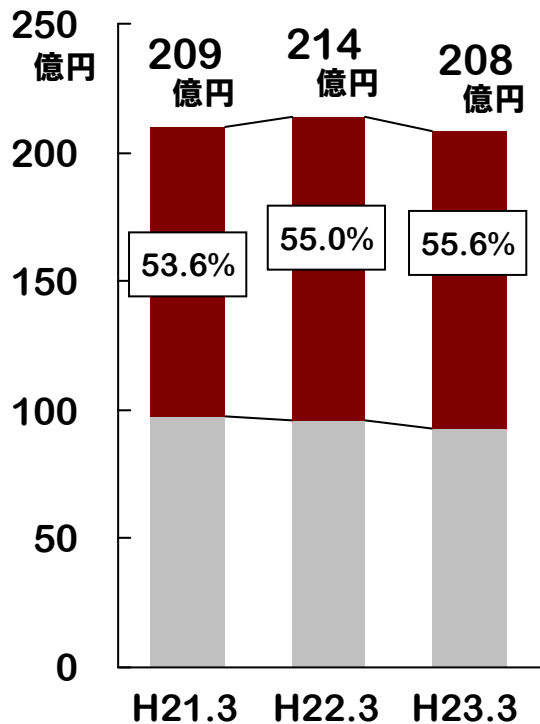
3. 今後の事業戦略

4. 巻末資料

巻末資料 ① 市場規模と当社シェア

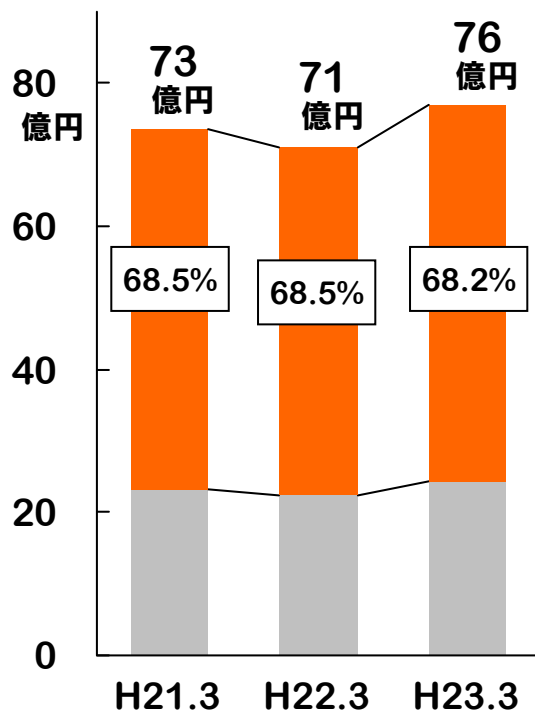
焼肉のたれ

■ 当社シェア



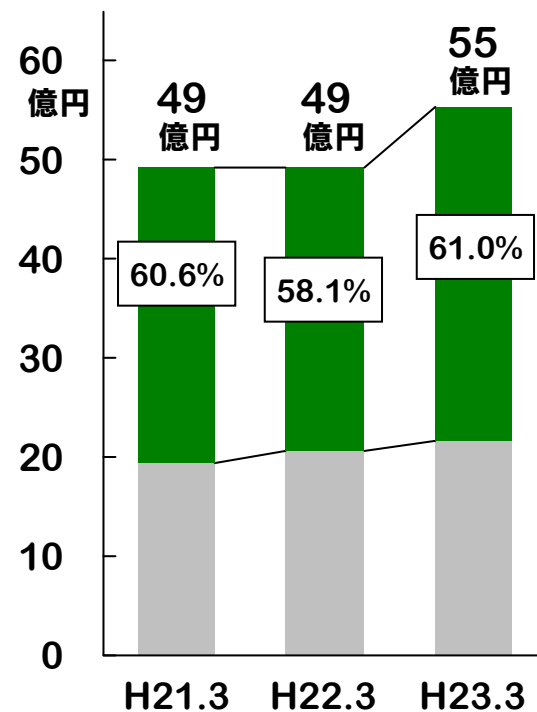
すき焼のたれ

■ 当社シェア



浅漬けの素

■ 当社シェア



※ 出典：インテージSRIデータ 平成20年4月～平成23年3月

巻末資料 ② 会社概要

商号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区北幸二丁目5番15号
代表者	代表取締役社長 藤川 雍中
事業内容	調味料食品の製造販売
資本金	13億8,713万円
設立	昭和33年（1958年）5月
従業員数	【連結】655名 【個別】453名（平成23年9月末時点）
連結子会社	株式会社 横浜エージェンシー 株式会社 エバラ物流 株式会社 サンリバティー横浜 荏原食品（上海）有限公司
持分法適用会社	株式会社 エバラCJフレッシュフーズ

巻末資料 ③ 沿革

- 昭和33年 5月 荏原食品株式会社設立
- 昭和43年 3月 「焼肉のたれ・朝鮮風」発売
- 昭和43年 7月 エバラ食品工業株式会社に商号変更
- 昭和45年 4月 テレビCM 開始
- 昭和53年 6月 「黄金の味」発売、テレビCMを全国一斉放映
- 昭和55年 7月 群馬工場(群馬県伊勢崎市)稼動
- 昭和56年10月 株式会社日本冷食(冷凍食品の製造販売)を子会社化
- 昭和59年 4月 栃木工場(栃木県さくら市)稼動
- 11月 宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシー設立
- 平成 2年 5月 株式会社エバラ物流を設立 物流事業に進出
- 平成 6年 4月 津山工場(岡山県津山市)稼動
- 平成15年 4月 中央研究所(神奈川県足柄上郡)を開設
- 11月 JASDAQ市場(現 大阪証券取引所)に株式を上場
- 平成16年 9月 株式会社サンリバティー横浜(人材派遣業)を子会社化
- 平成17年 4月 中国現地法人 荏原食品(上海)有限公司を設立
- 平成18年 3月 株式会社日本冷食の全株式を譲渡
- 平成20年 5月 設立50周年
- 平成23年 6月 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は、単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：経営企画室（TEL 045-314-0261）